

## 山行計画書 [Party Wandering]

【山行名】平成19年度茨城県大学新人体育大会登山の部						
【日時】2007年9月29日～10月1日（前夜発 日帰り×2 + 予備日1日）						
【目的】新人がリーダーをやってみる、大人数で盛り上がる						
【山域】日光白根山、男体山						
【使用地形図】丸沼、男体山、日光北部（1:25,000）						
【日程表】						
9/28(金) 前日	つくば(車)菅沼登山口					
9/29(土) 1日目	菅沼登山口(2:10)弥陀ヶ池(0:50)五色山(0:30)前白根山(五色沼経由 0:45 五色沼避難小屋(1:00) 白根山(1:20)七色平分岐(0:05)血ノ池地獄(0:05)七色平分岐(0:40)山頂駅(1:20) 丸沼高原スキー場(車)奥日光湯元キャンプ村(泊) 【行動時間 8:45】					
9/30(日) 2日目	奥日光湯元キャンプ村(車)志津乗越(0:05)志津避難小屋(2:40)男体山(1:40)志津避難小屋(0:05) 志津乗越 【行動時間 4:30】					
10/1(月) 3日目	予備日					
【荒天対策】						
・入山しない・引き返す・ビバーク・避難小屋の利用・エスケープルートの利用・ロープウェイの利用						
【エスケープルート】						
①弥陀ヶ池(0:35)七色平分岐 ②五色山(0:25)国境平(1:40)湯元温泉 ③前白根山(1:55)湯元温泉						
④前白根山(尾根道 0:30)五色沼避難小屋 ⑤血ノ池地獄ピストンカット(0:10 短縮)						
【現地交通機関】						
日光白根山ロープウェイ						0278-58-2211
関越交通（本社）						0278-72-6655
東武バス（日光営業所）						0288-54-1138
【山小屋・幕営地】	水場	収容人数	幕営数	連絡先	備考	
志津避難小屋	○	25人	—	0288-55-0017(日光二荒山神社)		
七色平避難小屋	×	10人	—	0278-58-2111(片品村商工観光課)		
五色沼避難小屋	○25分	30人	—	0288-21-1178(今市林務事務所)		
奥日光湯元キャンプ村	○	—	150	0288-62-2321	一人 1,000円	
丸沼高原スキー場	○	—	—	0278-58-4300	一張 4,000円、一人 800円	
【団体装備】下線…登山行動には携行しない						
<input type="checkbox"/> テント一式×1 (本体・フライ・ポール) <input type="checkbox"/> 団コッヘル <input type="checkbox"/> ガスヘッド×1 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> ガスボンベ×1 (280g)						
<input type="checkbox"/> ガソリンストーブ×1 <input type="checkbox"/> ホワイトガソリン 0.5L <input type="checkbox"/> 団マット <input type="checkbox"/> 天気図用紙 <input type="checkbox"/> ツェルト×1						
【個人装備】下線…登山行動には携行しない						
<input type="checkbox"/> ザック <input type="checkbox"/> ザックカバー <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> シュラフ <input type="checkbox"/> シュラフカバー <input type="checkbox"/> 個マット <input type="checkbox"/> 登山靴 <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 笛 <input type="checkbox"/> 計画書						
<input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> ポリタンク 20 <input type="checkbox"/> レーション <input type="checkbox"/> コンパス <input type="checkbox"/> 地形図 <input type="checkbox"/> 個コッヘル <input type="checkbox"/> 非常用パック <input type="checkbox"/> 携帯電話						
<input type="checkbox"/> 医療用パック <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 防寒着 <input type="checkbox"/> ビニル袋 <input type="checkbox"/> トイレトペーパー <input type="checkbox"/> 保険証 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 細引き <input type="checkbox"/> 時計						
<input type="checkbox"/> ヘッドランプ <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 学生証 <input type="checkbox"/> 米 合 <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 着替え <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> スパッツ(ある人)						

【食糧計画】※個…個人で用意、団…パーティーで用意、カッコ…予備食、下線…登山行動には携行しない

	1日目	2日目	3日目
朝	個	団	(団)
昼	個	個	(個)
夕	団	(団)	

【パーティーメンバー】

C.L.奥村、S.L.長谷川、越後谷、佐々木、原田

## 山行報告書 [Party Wandering]

【アプローチ】※原田・奥村は原田車、佐々木・越後谷は佐々木車、長谷川はレンタカーにて移動

人数・ドライバーの関係により、奥村班は上記の車割りでアプローチを行った。原田車については、9/27(金)20:45に平砂のホットスパを出発し、県道55号、国道408号、国道125号、国道4号バイパス、国道119号、国道120号を経由し、9/28(土)1:20に菅沼登山口に到着。出発以来雨が降り続いていたため、そのまま車内で就寝した。

## 【行動記録】

月日・時刻	場所	状況・行動内容
9/28(土)		
5:30	菅沼登山口	起床。雨。下山後の移動のため、原田車を丸沼高原スキー場まで回送。佐々木車が随行した。残りのメンバーはレンタカー内で朝食をとり、出発準備をした。
6:25	同上	雨は止み、曇り。体調はみな良好。3班ともに準備が整い、同時に出発した。しばらく平坦な遊歩道を歩いた後、樹林の中の登山道に入った。それなりの急登であるが、荷物が軽いため速いペースで登れた。台風の後だったので倒木や土砂崩れを心配していたが、そのような箇所はなかった。所々に岩があり雨で濡れていたが、表面は凹凸が多く、スリップ等の危険は特に感じなかった。時々雲が切れ、陽が射すようになった。
7:15	2100m	最初のピッチということもあり、50分歩いたところで15分間の休憩を取った。他の2班も同じ場所で休憩していた。メンバーの体調に変化なし。読図で現在地を確認して出発。道は相変わらず整備されており歩きやすい。思いのほか早いタイミングで弥陀ヶ池が見えてきた。空は再び雲に覆われた。
7:50	弥陀ヶ池分岐	景色がよかったので、しばらく前進をやめて写真を撮ったり、池の水と戯れたりした。
7:55	五色山へ分岐	長谷川に読図をさせた。少し迷っていたが、正しい道を選んだ。ここからは尾根上となり、路面は砂利っぽくなってきた。また風にも当たり始めた。アップダウン自体は小さく、楽に進むことができた。

8:26	五色山	体力の消耗は少なく、前回の休憩からそれほど長時間歩いたわけではなかったが、白根山までの所要時間の区切りを考慮し、また見晴らしがよかったことから、休憩を取った。風が強く寒かったため、少し時間を切り上げて13分後に出発。
8:56	前白根山	先行の広沢班は五色沼へ降りずに尾根道を進んでいたが、C.L.奥村は ○メンバーに疲労が見られない ○エアリア記載のコースタイムよりもかなり早いペースで行動できている という二点の理由から、エスケープルートを使用せず、五色沼まで降りる判断をした。降りる道は急で、所々倒木もあったが、大きな危険はなかった。早くから沼が見えていたせいか、沼に着くまでの時間は長く感じた。
9:18	五色沼	雲量が大幅に減り、晴れになった。ほぼ無風で、静かだった。エアリアには水場のマークがあったが、まったく見当たらなかった。登り返しの道はたまた倒木が見られたが、勾配は緩く登りやすかった。
9:32	五色沼避難小屋	太陽が完全に顔を出し、暖かくなった。広沢班は先に到着して休憩していた。後から塩谷班も到着した。時間に余裕があったのでやや長めに18分休み、広沢班と同時に出発した。白根山頂への道は急登。しばらくすると森林限界を超え、展望が開けた。小さな岩場がいくつかあったが、特に危険なものではなかった。
10:33	白根山	晴れ。地平線付近も雲が少なく、遠くまで見渡せた。やはり一般の登山客も多かったが、窮屈というほどではなく、集合写真を撮ったりレーションを交換したりしてのんびり過ごすことができた。36分間休んで出発。下り始めて5分ほど歩いたところで、ルートとは違う尾根に入ってしまった。10分ほど周辺を歩き回り、ルートに復帰した。原因として、エアリアに載っている登山道以外にも踏み跡が多数あったこと、風景と地形図とコンパスを正確に対応させられず、尾根の方角を読み違えたことが挙げられる。下りの道は砂利道から樹林に入り、比較的緩やかな下りが続いた。
12:17	血ノ池地獄分岐	雲が増えてきた。何やら浮かない表情の広沢班とすれ違ったが、時間に余裕があったので血ノ池地獄を見に行くことにした。
12:22	血ノ池地獄	遊歩道を歩くとすぐに着いた。山頂駅までそう遠くはなかったが、山頂から結構歩いていたので13分間休憩した。分岐まで戻るとちょうど塩谷班が下りて来たので、合流して歩いた。この辺りの道は遊歩道として整備されており、下りには階段などもあってとても歩きやすかった。
12:55	山頂駅	さらに雲量が増え、曇り。先に着いた広沢班は足湯に浸っていた。他のメンバーからも足湯希望者が出たため、長めの休憩を取ることにした。ここで

		<p>駅の売店の店員さんにルートについて話を聞くと、エアリア記載の歩道は現存せず、ロープウェーを使わないのなら、スキー場内を適当に気をつけて歩いて下りるようにとのこと。メンバーに不調等はなかったので、3班で固まり、歩いて下りることにした。無雪期のスキー場ということもあり、地面は点在する石が雑草で隠され、荒れていた。さらには急勾配の区間や浮石もあり、メンバーがバランスを崩す場面が目立った。</p>
14:25	丸沼高原スキー場	<p>行動終了。車が揃ったところで、アプローチと同じ車割りで幕営地へ向かった。</p>
15:45	奥日光湯元キャンプ村	<p>霧が出てきた。気象係のみレンタカー内で天気図を取り、残りのメンバーはテント設営、夕食の準備を行った。天気図から、翌日は大陸から高気圧が近づき、気温は下がるものの晴れるだろう、という予報となった。夕食は各班とも豪華なメニューが並び、全体山行らしく賑やかなものとなった。食後に3人のリーダーが協議し、この山行が縦走でないこと、日光周辺の観光も今回の全体山行の一要素であること、どうしても男体山に登りたいというメンバーがいないことを踏まえ、翌日は起床時の天候を見て、晴れていなければ入山しないということになった。各自のタイミングで就寝。</p>
9/29(日)		
6:00	同上	<p>起床。曇り。男体山方面は霧に覆われていたので入山しないこととした。朝食を摂った後反省会を行い、撤収。温泉が空く時間まで各自フリスビー等で遊んだ。</p>
9:00～		<p>近隣の温泉に入り、宇都宮みんな睦町店にて昼食、帰筑。</p>

【反省会内容】※発言順

長谷川

- ・初めてのS.L.で、道に迷ったり地形図が読めなかったりしたが、自分のペースで歩いて面白かった。
- ・地形図をもっと読めるようにしたい。
- ・体力をつけたい。
- ・下りで足が痛くなったので、歩き方を身につけたい。
- ・風邪を引いていたので、体調管理をしっかりしたい。

原田

- ・コンパスと時計を車に忘れるなど気が抜けていた。
- ・トレーニング的でないペースの山行ができた。
- ・アタック装備にしたのはよかった。
- ・長谷川から「〇〇注意」の指示が十分出ていてよかった。
- ・S.L.はもう少し後ろを見ながら歩いてほしい。

佐々木

- ・S.L.が先頭で歩きながら地形図を読むのは難しいので、C.L.やフォロワーがなるべく読むように。迷った時は止まろう。
- ・休憩時間は、寒いときは短くするなど臨機応変に。
- ・ペースはよかった。
- ・全体山行向きの山だった。
- ・スキー場は嫌。

#### 越後谷

- ・高校登山っぽい雰囲気味わえてよかった。
- ・長期経験者ばかりでスムーズに歩いていた。
- ・もっと自分で山を出してみると面白いと思う。
- ・最初の登りで体力不足を感じた。

#### 【感想・改善点など】

##### ○感想・反省

初めてC.L.をやってみて、今まで知らなかったいろいろなことに気づいた。まずは事前の準備。行く山の候補探しから、ルート状況の調査、そして計画書を書き上げ、修正を加え、完成させるまでの工程は、初めてということもあり、かなり大変なものだった。また行動中は、常にパーティーメンバーや時間に気を使いながら、最後尾から追従するのは予想外に厳しく、何度か遅れそうになった。

技術面では、白根山頂直下で迷ったときなど、読図の際の地形図とコンパスの組み合わせがまだまだ未熟だと感じた。一方で下りでは転倒などの失敗がなく、歩行技術の向上を実感できた。

##### ○改善点

最後のスキー場の下りでは、膝への負担、所要時間、メンバーのモチベーションなどを考えると、多少費用がかかってもロープウェーを利用した方がよかったかもしれない。

##### ○最後に

山行を終えて、今までにない達成感があった。計画から関わった山行を事故なく無事に終わらせられたことは自信にもつながったし、感慨もひとしおであった。これからもS.L.やC.L.として場数を踏んで、行きたい山は自分で計画を出すなどして、主体的に山に行けるようになりたい。